

## 令和3年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 戸ノ上 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、数学)

###### 教科に関する調査(国語、数学)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 生徒質問紙調査

###### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

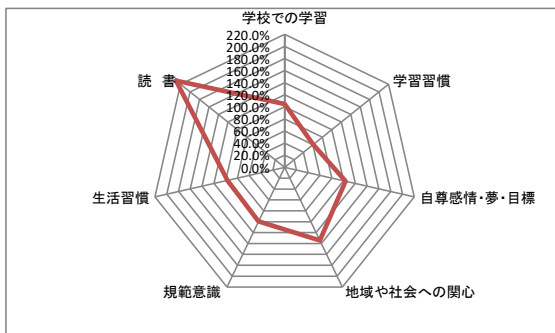
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学)の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 数学    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 8.8   | 63    | 8.8   | 55    |
| 全国     | 9.0   | 65    | 9.1   | 57    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |                                                                                                                                                                                                         |             |
|----|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 授業や朝自習等で「自分の意見を書く」「要約する」などに中1の頃から多くの時間を費やした。そのため書くことにあまり抵抗がなくなり記述問題の無解答や、激しく的外れな解答が少なくなっているのではないと思う。しかし、言語そのものの意味や知識、文法的な事項が弱い。また、「その文章が何を意味しているのか」(表面的な言葉でなく、その奥にあるもの)を文脈からとらえて表現する力が非常に弱い。→無回答率が高くなる。 | 全国平均正答率との比較 |
|    | よくできた問題     | 「書く」・・・自分で考えて記述する問題                                                                                                                                                                                     | 下回っている      |
|    | 努力が必要な問題    | 言語や文法の知識そのものや言語の向こう側で、暗に意味しているものを類推する問題                                                                                                                                                                 |             |
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 中央値を求める問題や知識と計算を必要とする問題で課題がある。しかし、ヒストグラムや図形領域での問題においては、県と全国ともに上回っており視覚的な問題が得意な生徒が多いことがわかる。また、全体を通して無回答率が低いことが上げられる。                                                                                     | 全国平均正答率との比較 |
|    | よくできた問題     | ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、数学的に表現する。                                                                                                                                                                     | 下回っている      |
|    | 努力が必要な問題    | 中央値を求める                                                                                                                                                                                                 |             |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均に比べ、家庭学習の時間が大幅に少なく、宿題をする程度の時間で終わっている。自ら計画を立ててはいるというアンケート結果だが、学習習慣がない為、1時間以上に到達していない。</li> <li>・読書の量が一昨年よりも大幅に増えている。これは、図書館利用の呼びかけや、クラスに据え置きの本の活用が、読書に対しての意識を変えたと推測される。</li> <li>・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる生徒がほとんどであったが、自分の意見を持っていることが少ないため、積極性に欠け、目立つようなことを避ける傾向が見られるのではないと思う。</li> <li>・学校のきまりを守ったり、いじめはどんな理由があってもいけないと考えたりする。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・説明文や長文問題、資料を活用する問題に慣れさせ、読解力や分析力を身につける授業に取り組む。
- ・朝読書の取組を増やし、読書に慣れ親しむ習慣作りを図る。
- ・宿題及び自主学習ノートの取組を充実させ、家庭での学習習慣づくりを図るとともに、思考力、判断力、表現力の向上を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・食育指導等を通して、充実した学校生活を送る上での「食の大切さ」「朝食の重要性」について啓発を図る。
- ・生活リズムが崩れないように、スマホ・ゲームなどの使用について家庭でのルールを決めるよう、生徒、保護者に周知する。
- ・学校通信、学年通信、懇談会等で基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組に理解を図る。